

拳會角力圖會

下

ヲ多

30

2

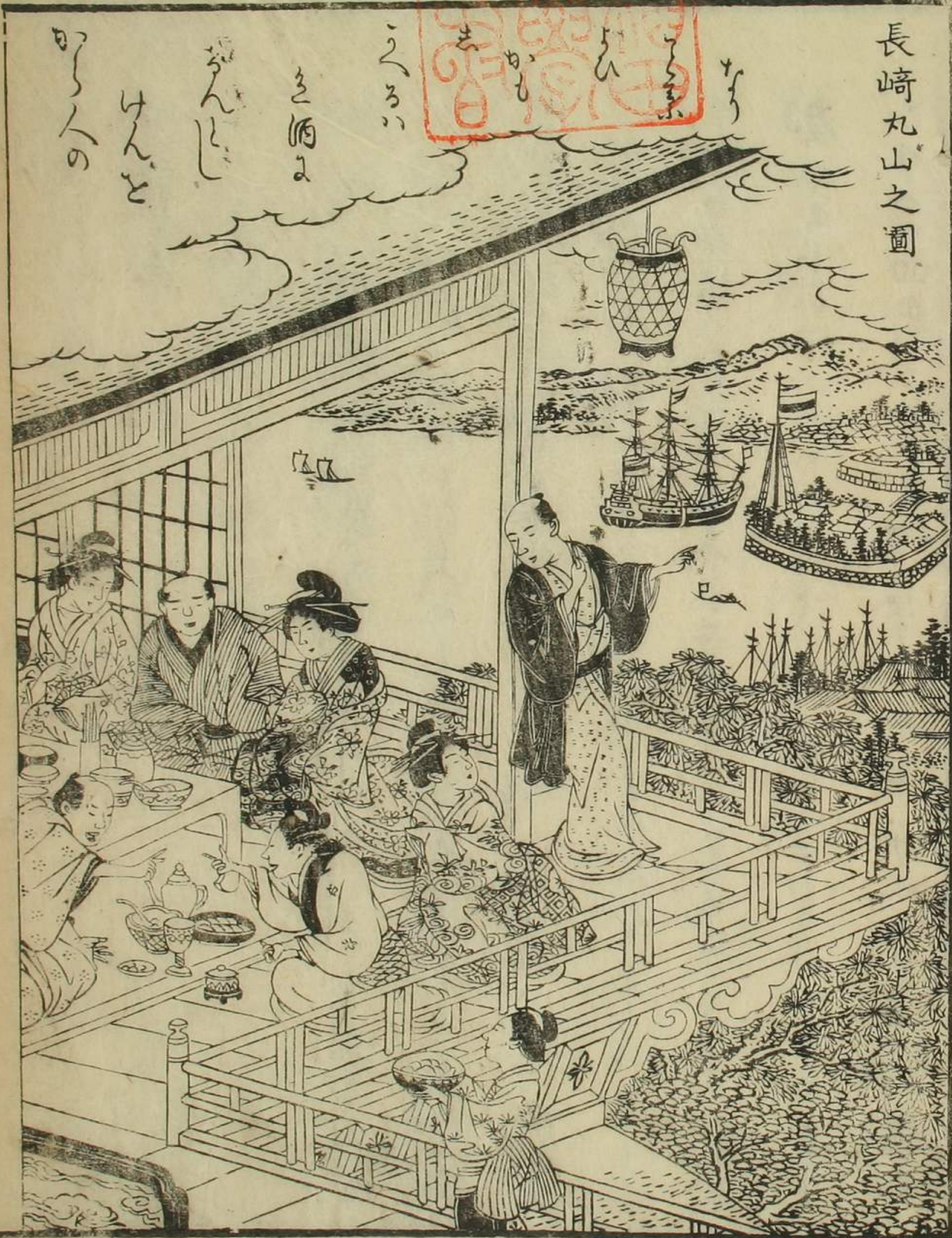


門ヲ
號30
卷2



長崎丸山之圖

町の
けん
と
さん
し
さ
酒
よ
こ
ろ
ハ



拳會角力圖會 下之卷

○唐音之率

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 對手

數度霄談よ云拳の率唐土よりりらるりふして

雅名は是れ酒令とらるるひの步花拳よこの一拳

まどつゝ歩花の唐音として。タア ハア とやゆらやうれり

ならん一より九よいらの律よこの唐音あり一と一と

りらるるひのタニとらるるタニを單の唐音なりやうと西や

叁やまどいつるやの耶の字或也の字なり。四とスムイ

とり入の四兵とらるるやかり七とチエとらるる唐音

下ノ一

七と十とらるるの云彙なり。すこ七磨六磨ハ

磨等の磨の上一字の音として。はやららりつる利由

助語なり。俗語の也乎とらるる字なり。たよハ也乎と

りらるるのこもあり。十の唐音よこの十とらるる拳よ都

本とらるるもの。都の統也と物物の敷とらるること

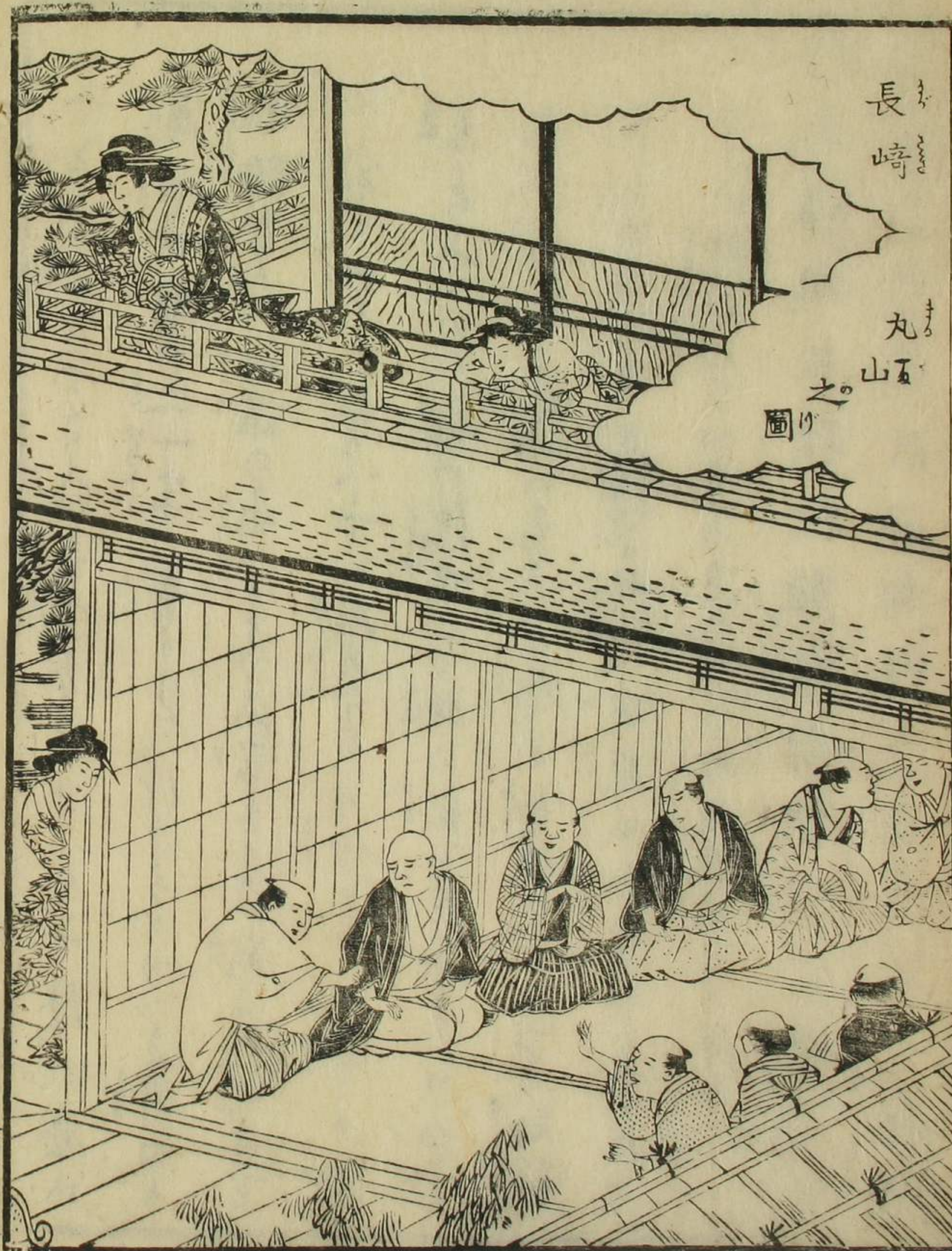
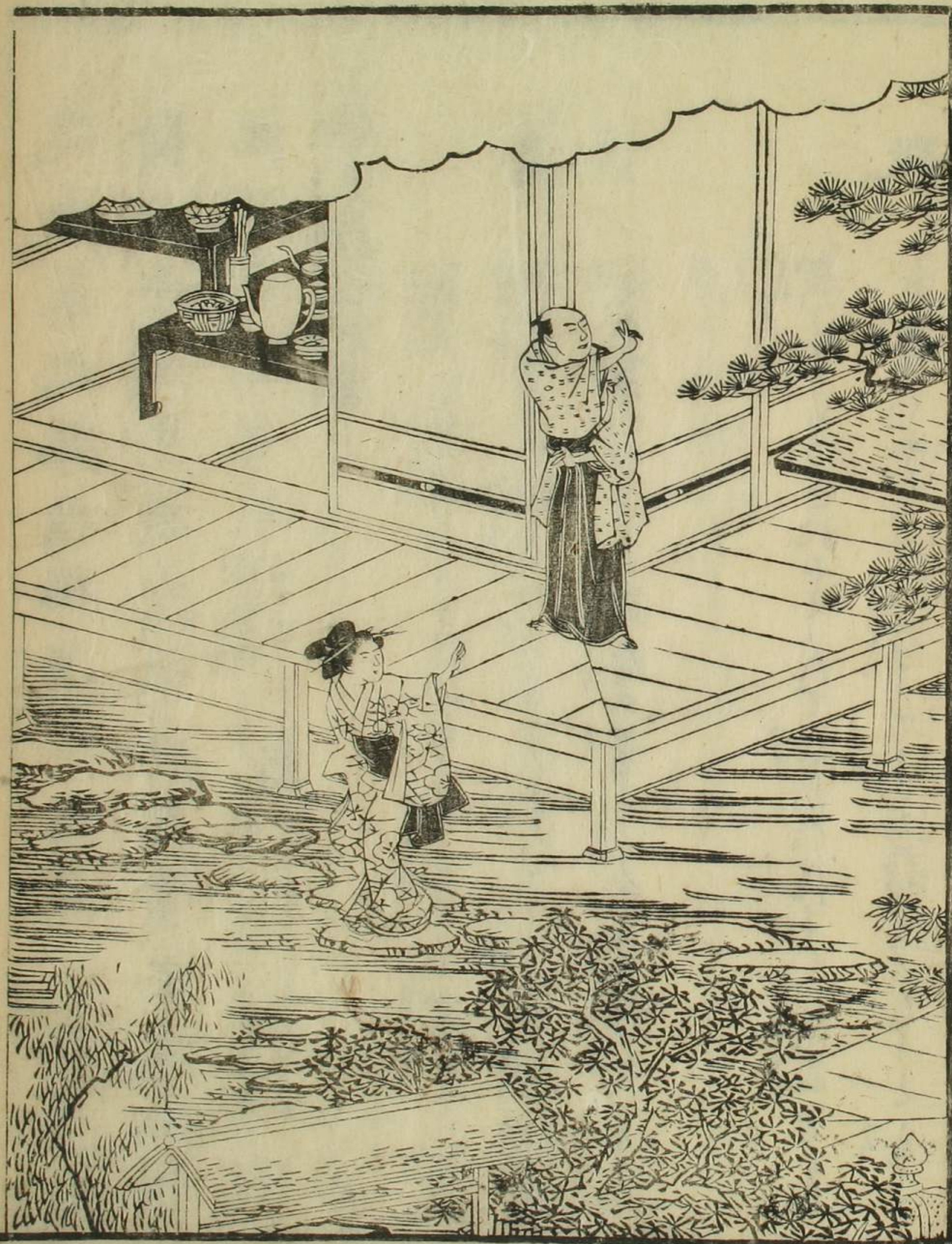
かり本とらるるもの。是やと都と音はやりつる助語と

ららるるなり。唐詩よ所謂夜來風雨聲のよこあり

やしと物心敷とらるるのゆも通じらるる

○五雜俎云猜枚雖極鄙俚亦有精其術

者吳門袁君著有拇經自負天下無對



秋の季ふして白虎公なり

羽

向く入相子より我をそをひつらられせんの指に
一向目もほろずしてとまき思にならうとされぬ
時あり是則冬の季ふして玄武公なり

初拳城勝拳心得之事

初拳城初拳城うらて多く負ふたうありこれ季の由るむ
不ありはじめの拳に勝らうとて負たるころにありて
ととゆるえどおべし。まけたり方よの大事と

おのひちだんおくお勝らう方よのそとみとぐるもの
かりまもせんが我よりいさめ弱き拳たも色い追
し。うらうとさせて取事もあれどもせんさうさるん
よろし。かどぞ。我より下の拳をおとさうわが
たりのやうよあびも生もどもおより上子の拳に向
お時の指の自由あり。し。これ習も口傳もあり。く
あ。我よりたう人よむくべたより二刻も家
風のそくむものなり。是其一ツよ魂のつらざるそら
なるべし。始うむう人の人の家より上よなうんと。
其人よのまろやうあやうらうら。拳よ利とほら



事なり一幸ん哉勝の下よおと一付えらぐとして
つうの利からべ一あやうひう入とえあげておの利を
矢あへるりあり其餘の隙を意愛あり

○金伴拳とあよ一三二五ウ七九 半ノ指と出

とこい子の表と出—やこ二三四ウ六ウハ—十一の
子と出ととこい子の表と出とが本意かきどもはく
拳の流しとらよりとあ—と考へ後それらより
肩先よりああらと時い何の子が出るお出—ふを
何の子と出ととりやうよ目か—とてかりしより
近世表表よむとらべ子と出と表表よむとらひ

別陰陽なり

拳よ己成捨らとら一

五人びろんかぎのとき五人中どひみんで流そんよ
かからて相よ初拳を原二拳りもやう其相よ
とりとやととらととこ己成とてお事ありとけを
捨らとらいぬ指よをほしも心をけごとしてお事こ
とこ—おととと指よこう後どうけとと相よを仕とら
る事おほつとつ—ととと指よとと後をほけておと
平度のみかり今度とつ入るは—とととたよのぞ
ん—とと指よとととととと己成捨ら—

太^た平^{へい}之^の拳^{けん}
之^の圖^ず



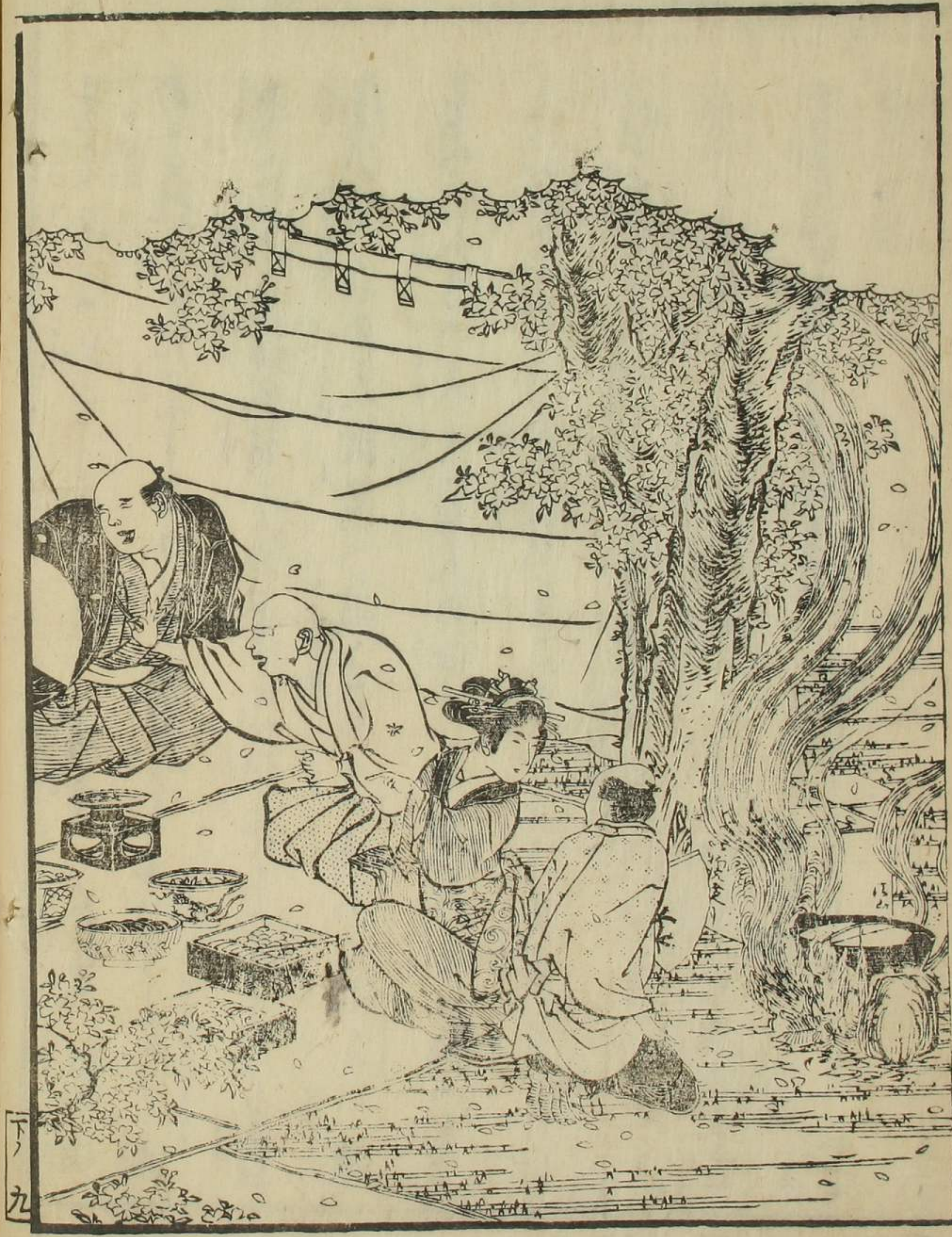
下
八

あゝ上戸も下戸もたがひよふまゝなるが、
はつ不気なものなり。おけ巻よあつる人の大よ
福ありとて、あつる 湯よてら、あつる 正月の夢初あつる
戒講あつるなどの酒席あつるして、あつる 其面白きや、あつる
ぞ、人々け巻あつる成りして、あつる 其面白きや、あつる
後入あつる 勿福あつる 本巻あつる をあつる人々も出ま
ふるやなれ、其序おひひと賑あつる といて、あつる
のやうに、け巻あつる 一名連子巻あつる もつたなり。

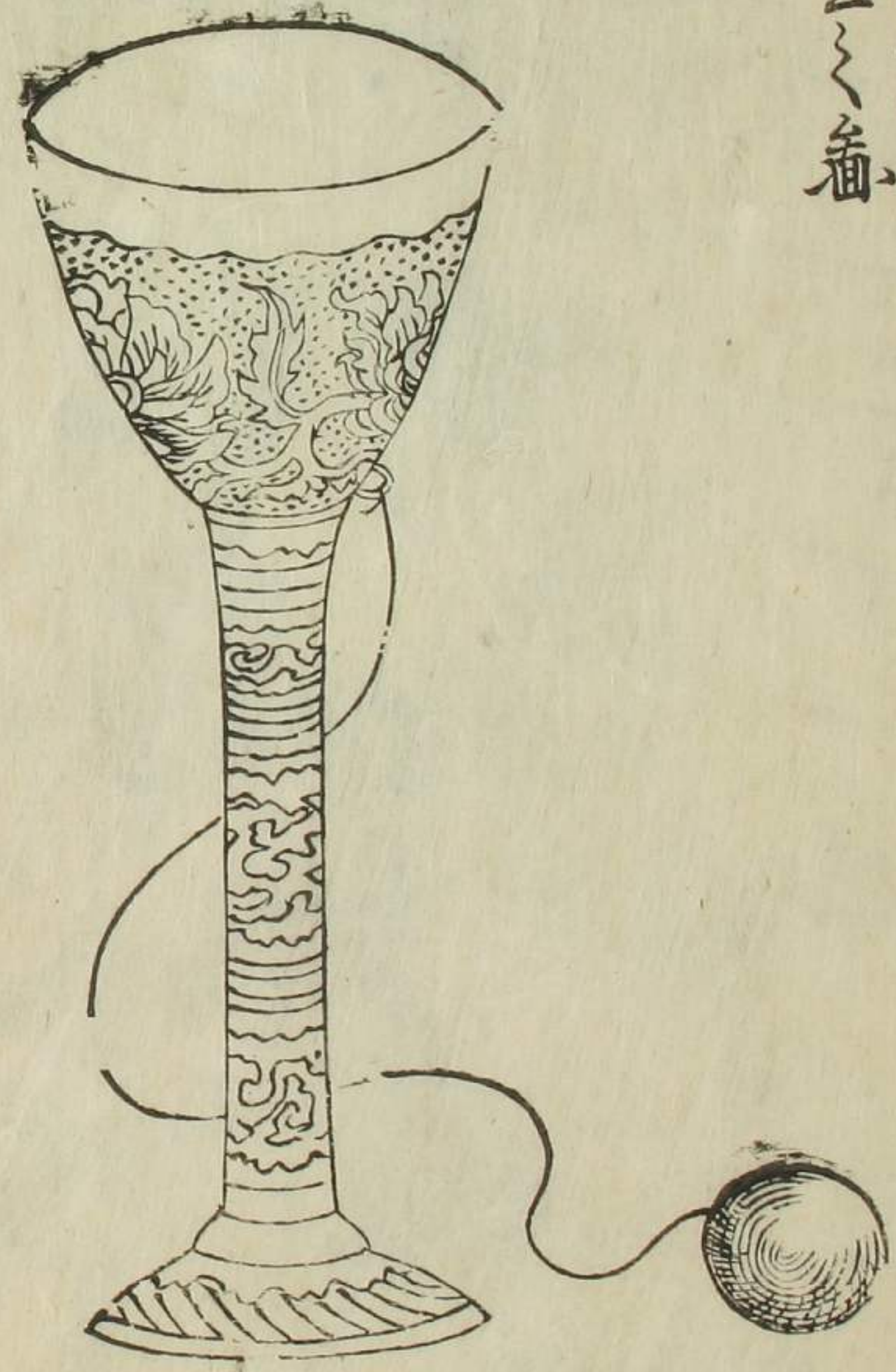
まらひとあけん
じ玉拳

是もあつる出せーごご、あつる 唐素、あつる 花梨、あつる 紫檀
あつる、あつる 此本としてコツフあつる 成造り、あつる
本よあつる、あつる 細成付あつる そのは、あつる 小日本として造りたる玉と
後あつる 付右の本酒巻へ、あつる 彼玉成五遍あつる のうら小一遍
まらひ入らふ、あつる 又三層あつる の中よ一層あつる とらひ入ら
ら、あつる づまあつる とも、あつる 其初あつる のきりめ、あつる 小つりて玉とをらひ
ぬ、あつる 務あつる かけ成り、あつる け巻あつる 双方あつる につら、あつる
まらひのなり、あつる 是も酒席あつる に、あつる
まらひの面白き巻なり、あつる
まらひの面白き

松人の
 斧の
 音の
 よも
 掃
 りん
 うて
 り
 の
 藤
 の
 藤



こつふたまのり
木酒器玉く番



盲人拳

け巻双方ともは指城出さ次は又一時の声を
 向ふより一巻上をいひ一方が捲たりたどど
 ふうん一とらふともち二とらふとも出せし
 捲たり巻度とも一より十まで日一事あり
 長崎丸山の尾崎とらふふ富都とらふ法作あけん
 巻成おまたがひよく巻成出さうら彼法作むら相
 のの甲城其度でん捲くせんの出世指城初にこそ
 煮りふはけ法作の長崎よあめ巻の上の肉さるむ三味
 線も甚名人がうとど今文化み年こそ年以せお七事からさきめ法作

せうやけん
はな屋春

なやどのり

はな屋に

はな

はな

はな

はな

はな

はな

はな

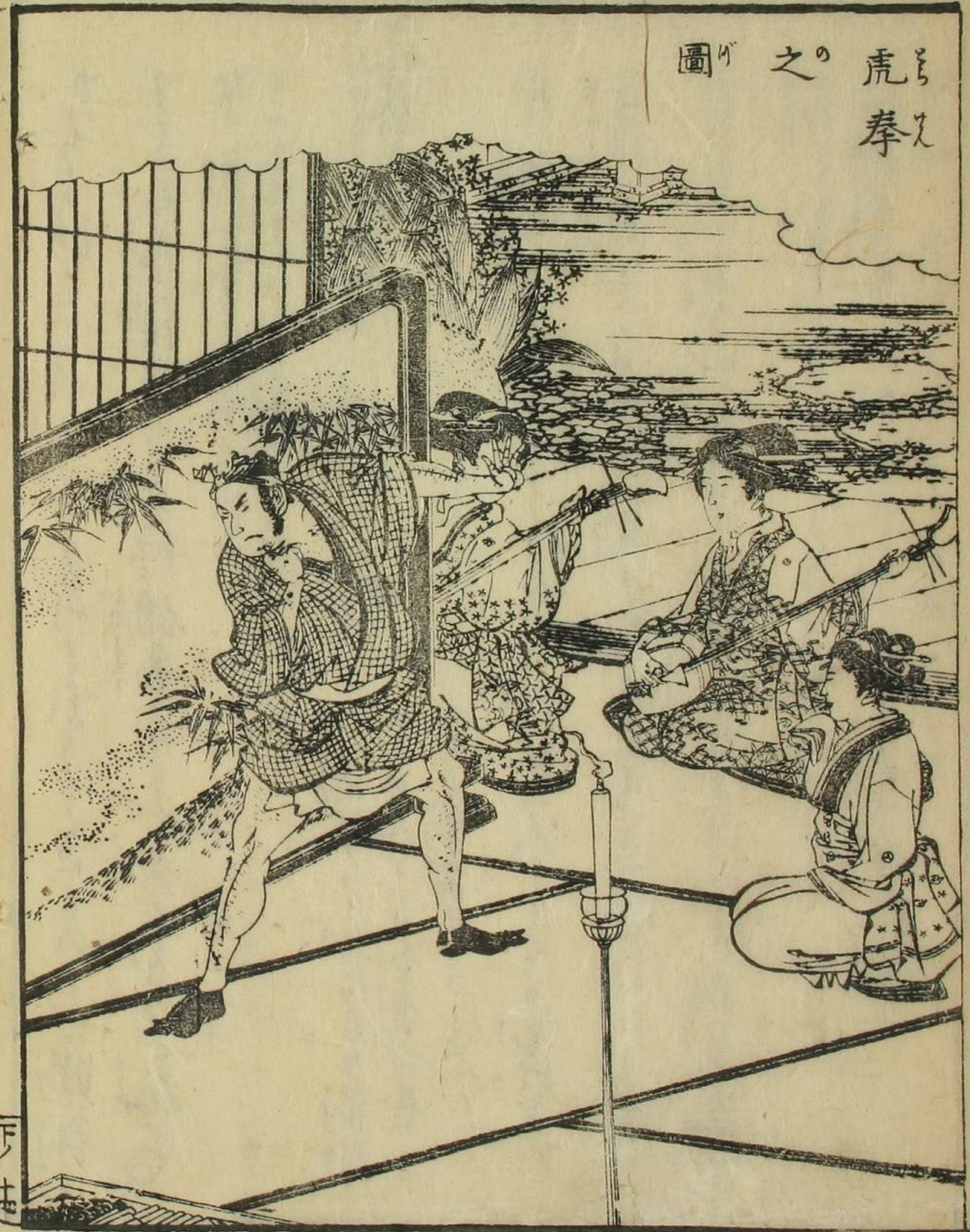


かん
の
酒
え
ふ
と
え
ん
あ
や
を
で
ん
せ
ん



むし 春
 蛙 蛇 虫 延
 蛙のふらふら
 2 掛
 まわんまわんハ
 蛇ふかし
 うさぎ
 まご 蛙
 猪ろこ
 向ひあそ
 一二三の
 車あり





浪華拳諸名家組々表附

北船場
古定組

頭取	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	前	小	関	大
平嘉												頭	結	脇	関
組頭															
平義辰															
	備後	磯	花	一	葉	芦	朝	勇	里	文	都	舎	東	義	
	後	浪	紅	十	水	崔	浪	喜	橋	崔	崔	亭	士	友	

中船場
新定組

世頭	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	前	小	関	大
頭取												頭	結	脇	関
定三															
	日	都	加	九	山	龜	都	和	龍	都	花	文			
	忠	柳	遊	竹	嘉	水	石	樂	巴	水	石	樂			

Handwritten notes at the bottom left of the page.

